

花粉飛散状況について

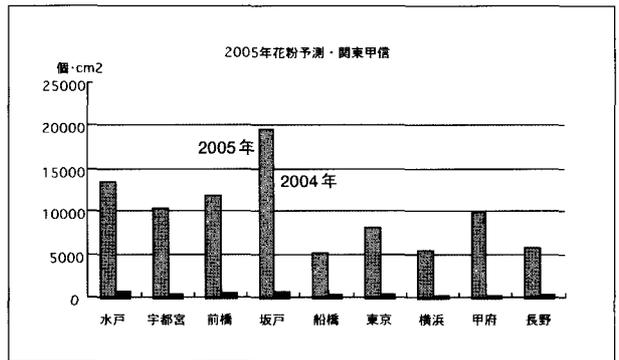
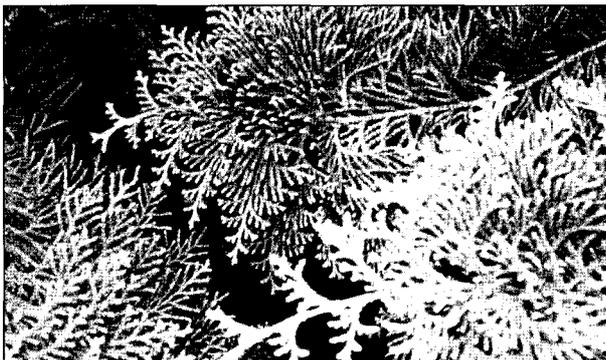
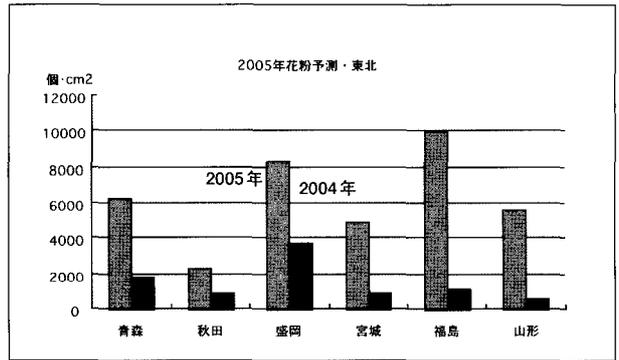
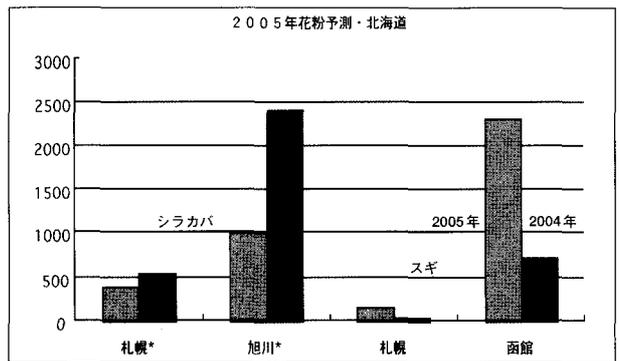
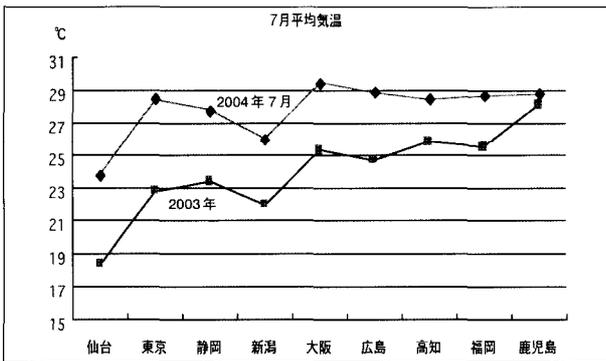
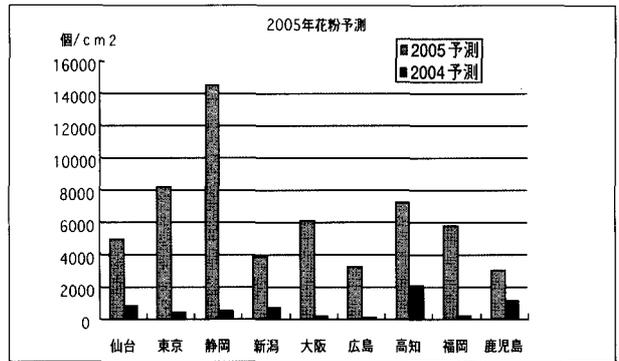
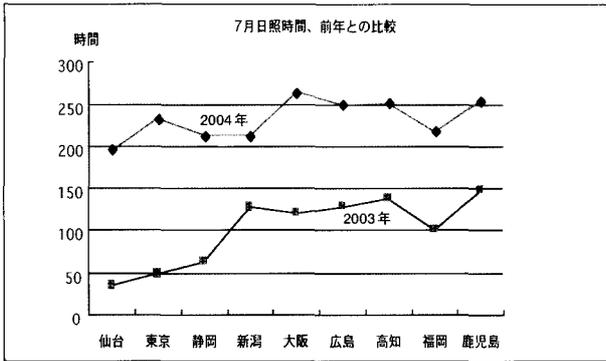
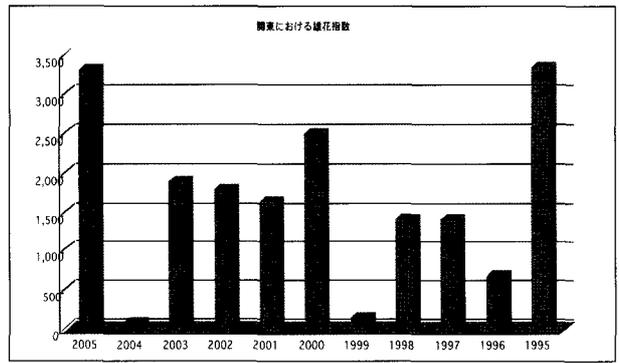
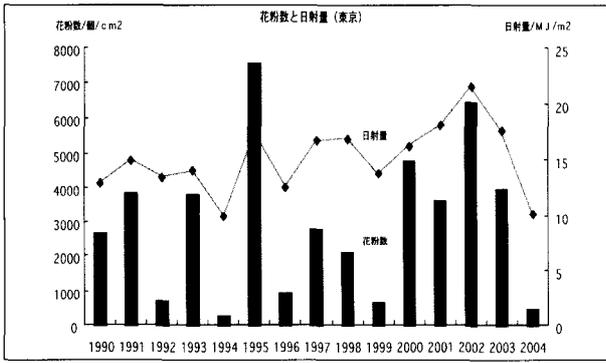
村山 貢司

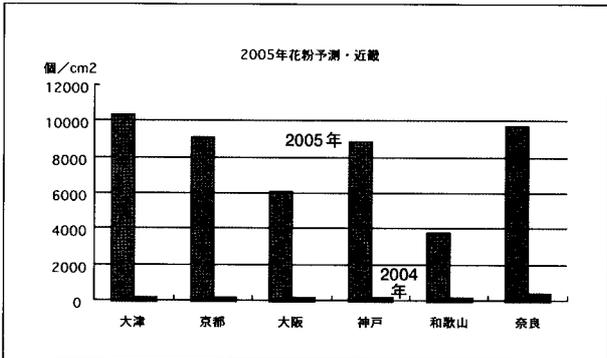
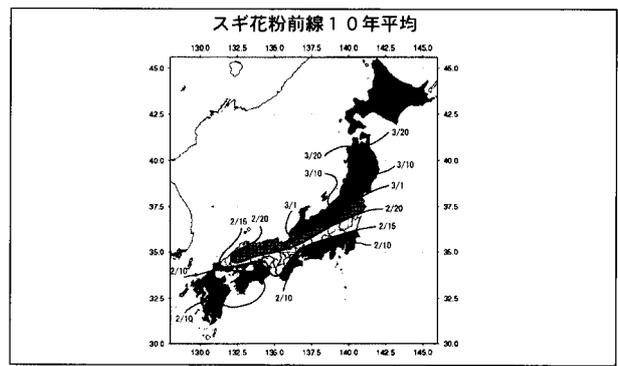
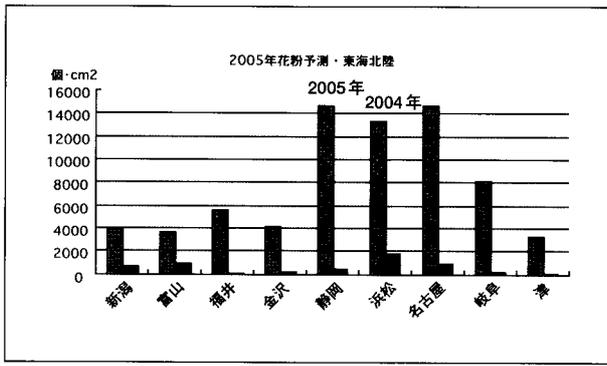
財団法人気象業務支援センター

スギ花粉症の原因となるスギやヒノキ科の花粉量は前年の夏の気象に大きな影響を受けます。

スギ花粉を出すのは雄花で毎年7月頃に花芽が成長を始め、この時期の気象条件で雄花の量が増減し、翌年春の花粉量が増減します。気象条件で最も影響するのが太陽からの日射になります。つまり、7月が空梅雨で日照時間が長く、高温で雨が少ないとスギやヒノキはたくさんの雄花を着けて翌年春の花粉が多くなり、逆に冷夏、長雨になると翌春の花粉が減少します。

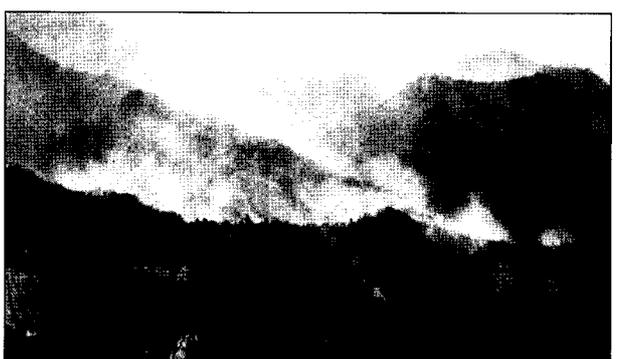
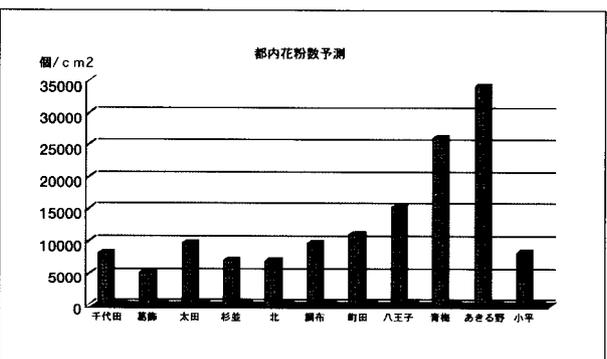
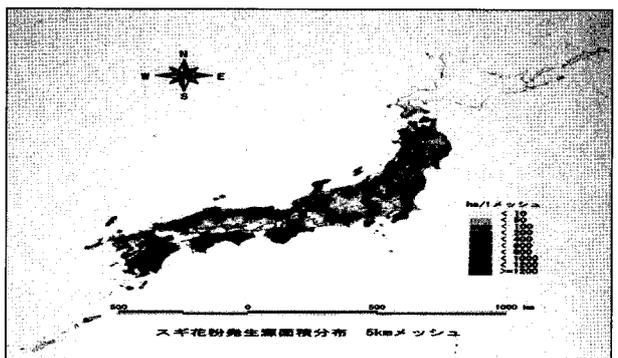
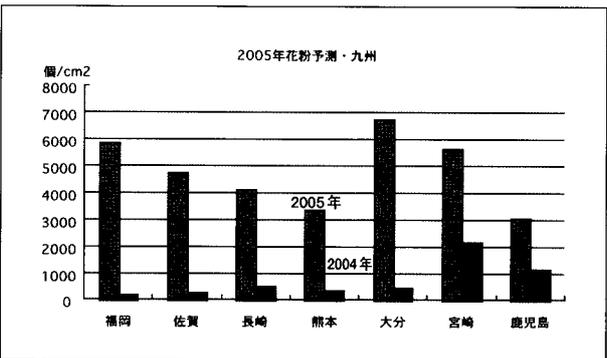
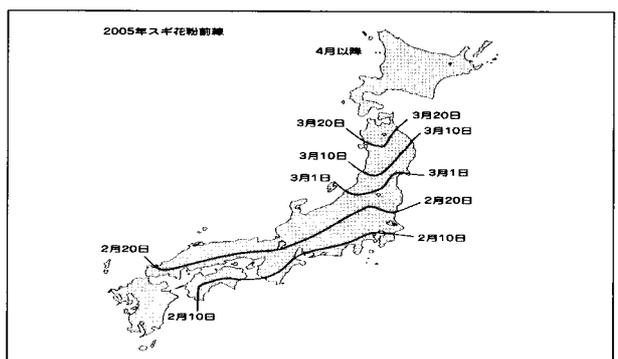
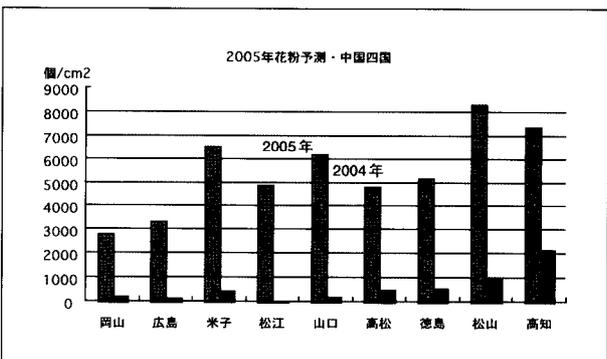
2003年は記録的な冷夏で翌2004年の花粉は全国的に少なくなりました。一方、2004年の夏は東京で39.5度を記録するなど厳しい猛暑になり、日照時間は長く、雨量も少なくなっています。夏の気象条件はすべてが雄花を多くする、つまり2005年の花粉が多くなる方向に働いています。秋に各地で行ったスギやヒノキの雄花の着生量調査でもほとんどのスギが大量の雄花を着けているのが確認されています。このため2005年春のスギやヒノキの花粉量は2004年春に比べて10倍から30倍、過去の平均と比較して2倍から3倍の大量飛散になると予想されています。スギの花粉がいつ頃からいっせいに飛散するかは秋から冬にかけての気温で決まります。秋の低温、冬の高温暖は花粉が飛び始める時期を早くし、秋の高温、冬の低温は遅くさせるようにはたります。2004年の秋は高温、2005年の1月はほぼ平年並みの気温になっており、2005年の花粉の飛散開始時期は例年並かやや遅くなるでしょう。スギやヒノキの花粉はここ数十年各地で増加する傾向が見られます。戦後大量に植林されたスギやヒノキが成長してたくさんの雄花を着けるようになったこと、気候の変化で夏の日射量が増加していることなどが原因で、今後もしばらくは増加傾向が続くと考えられています。

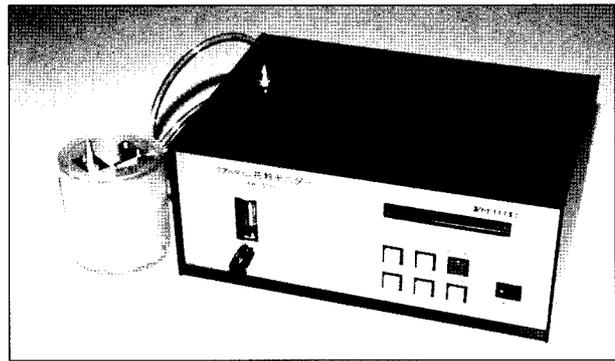
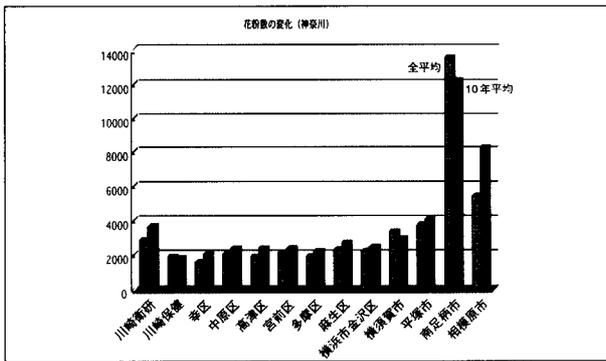
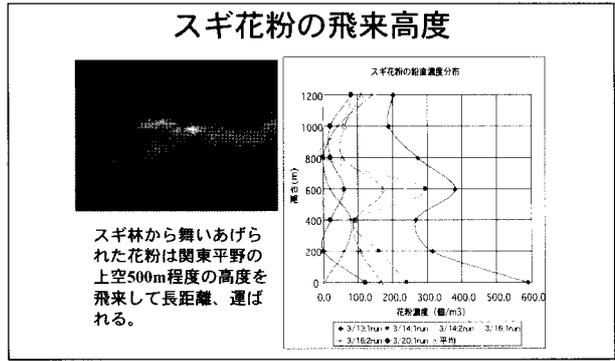
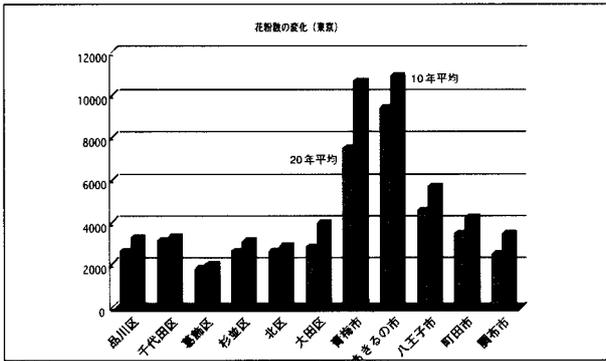
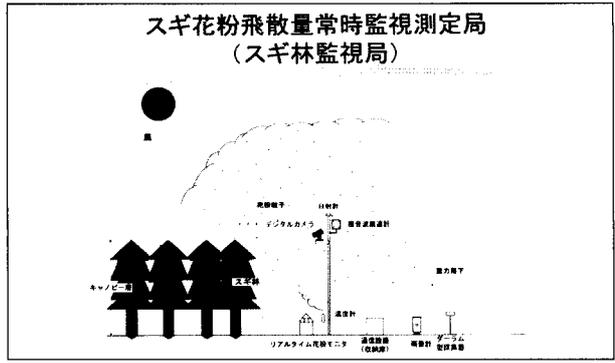
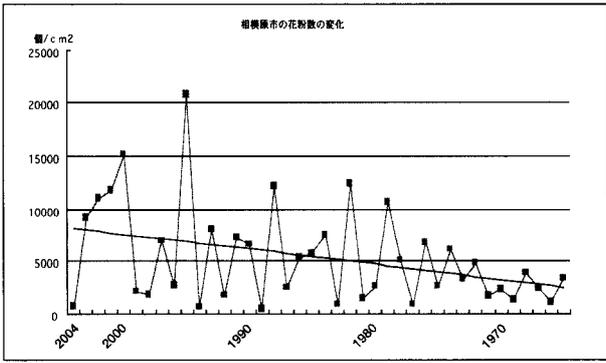




花粉飛散開始と気象

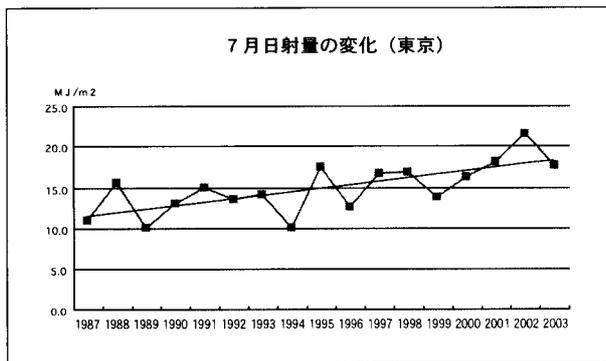
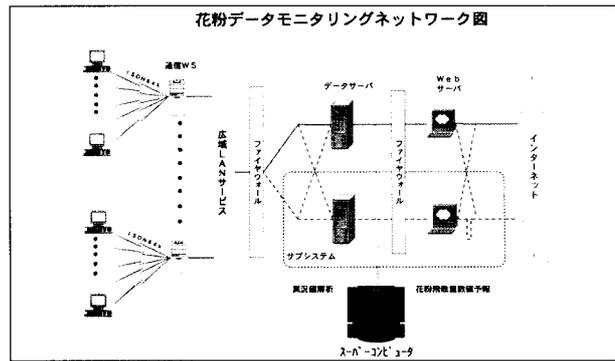
- ・スギ雄花は秋に完成→休眠に
- ・冬に休眠から覚めて開花準備
- ・秋の低温→早めに休眠に
- ・冬の高温暖→早めに開花
- ・04年秋は高温、この冬は平年並





花粉症に関する気象

- 湿度の低下→粘膜の損傷
- 日射量の増加→花粉量増加
- 降水量増加→花粉量減少?
- 温暖化の影響は?
 降水が亜熱帯型に
 日射量の増加
 結果として花粉量は増加する。



花粉情報の活用

- 飛散開始の情報が最も重要
- リアルタイム花粉飛散数情報
- 花粉症QOLに関する調査で実施
- <http://data.sokki.jmbasc.or.jp/pollen/>